

日本医学史学会関西支部昭和六十二年春季大会

共催／京都医学史研究会

とき 昭和六十二年五月二四日(日) 午前一〇時から
ところ 京都市左京区吉田河原町一五―九

京大会館一階(電話〇七五―七五二―八三二一)

プログラム

- 一、脊麻帝切論争を顧みる 藤田 俊夫(京都市)
- 二、民間信仰の一面 せんき神道 森 納(鳥取県)
- 三、上方と江戸の笠森 (瘡守) 稱荷 宗田 一(京都市)

- 四、下級武士の日記にみる 病氣と医療について 茅原 弘(津市)

- 五、清涼寺釈迦像胎内五蔵 内臓模型について補遺
―そのX線の所見― 高木 重彦(丸太町病院)

- 六、ボードイン書簡について(その二)
書簡中のオランダ医 ハルム・ポイケルス(ライデン大学)
石田 純郎(三菱水島病院)
フォス美弥子(在ライデン)

- 七、幕末海外留学史研究雑感
―とくに緒方惟準(第二)
回オランダ留学)の場合 古西 義麿(大阪市立此花図書館)

八、備前藩医木畑坦齋の

己酉遊学私史

- 九、黒川良安の蔵書印について 中山 沃(岡山大学)
- 一〇、広島の整骨医広藤道庵 寺畑 喜朔(金沢医大)
- (一七五四―一八三二)とその著

「整骨新書」と子孫について 蒲原 宏(県立がんせんタ1新潟病院)

- 二、帝国大学病院薬局 中室 嘉祐(奈良佐保女学院短大)
- 三、横浜フランス病院について 中西 淳朗(横浜市)

- 四、まが玉私案―八東脛胴窟 遺跡出土の穿孔歯について 奥沢 康正(京都市)
- 五、戦前の労働者保護立法 藤田 琢史(京大病院)
- 六、衛生省から厚生省へ 佐久間温巴(西尾市民病院)
- 七、適塾生竹内東白の書簡 芝 哲夫(大阪大学)

特別講演

- 皆川淇園と 彼をめぐる医人たち 宗政五十緒(龍谷大学教授)